

- 中山間地域である十日町市鏡坂地域は、高齢化・人口流出による担い手不足や耕作放棄地の増大、地域活力の低下が問題になっていた。
- 平成27年、地域の農業機械利用組合の代表者から「組織を法人化し、6次産業化を進めて雇用を生み出し、地域を活性化したい」との相談を受け、活動をスタート。
- 農業普及指導センターの支援の下、鏡坂地域では、外部専門家を活用し、農業法人の設立を進めるとともに、総合化事業計画を策定。これまで生産してきた「そば」を加工し、消費者へ直接提供する施設建設を目指した。
- その結果、農業法人が設立され、農家レストランの開設により、30代を中心に17人の雇用が創出された。また、耕作放棄地2haが再生され、野菜、そばの栽培が始まるなど、取組が拡大している。

具体的な成果

1 法人設立

平成28年1月 法人設立（構成員4人、そば16ha、水稲作業受託12ha）

2 農家レストラン「そばの郷Abuzaka」オープン

- ・平成29年3月7日オープン
- ・H29年度販売額：4,776万円（目標対比：120%）
- ・若い従業員が主体的に運営できる体制を確立。

3 新たな雇用創出

・30代を中心に17人を雇用。（農業部門3人、レストラン14人）

4 耕作放棄地再生と規模拡大

・平成30年6月耕作放棄地2haを再生。園芸30a、そば1.7haを新たに作付け。



農機メーカーとの連携による耕作放棄地再生



再生農地での播種作業

5 地域連携による地域活性化

- ・食材調達で地元農家との連携が生まれ、地域活性化に寄与。
- ・交流人口が拡大したことで、地元そば店からも集客が拡大しているとの声。

普及指導員の活動

◆各種課題に応じ、外部専門家、民間企業とのコーディネートを行い課題を解決。

◆平成27年度

・6次産業化プランナー等の活用により法人設立、総合化事業計画の作成を支援。

◆平成28年度

・6次産業化プランナーの活用により農家レストラン開設に向けた支援。

◆平成29年度

・経営の安定に向けた経営指導の実施と平成30年加工施設導入に向けた計画作成。

・耕作放棄地の再生に向けて民間企業との連携をコーディネート。

◆平成30年度

・民間企業の社会貢献プロジェクトを活用した耕作放棄地再生支援と栽培指導。

普及指導員だからできたこと

・普及は農家に一番身近な存在であり、幅広い分野について情報を提供し、対象の課題に適した外部専門家等をコーディネートできたことが、活動成果に結びついた。

新潟県

農家レストラン「そばの郷 Abuzaka」で地域を変える！ ～稼げる・暮らせる・未来につながる農業を目指して～

活動期間：平成27年度～継続中

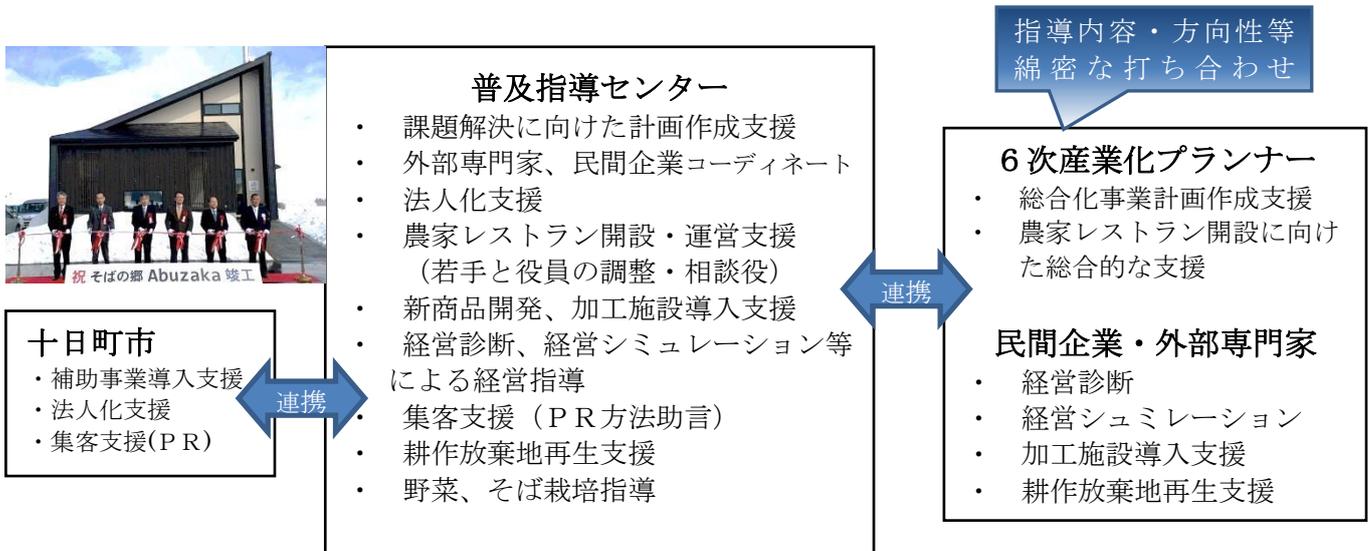
1. 取組の背景

中山間地域である十日町市鑑坂地域は、高齢化・人口流出により担い手不足や耕作放棄地の増大、地域活力の低下が問題になっていた。そんな中、平成27年5月、地域の農業機械利用組合の代表者から「組織を法人化し、6次産業化を進めて雇用を生み出し、地域を活性化させたい」との相談を受け、活動をスタートさせた。

2. 活動内容（詳細）

(1) 活動体制

十日町市と連携するとともに、課題に応じて外部専門家や民間企業とのコーディネートを行い、連携しながら課題解決を行ってきた。所内においては、広く情報共有し、課題に応じて柔軟に対応出来る支援体制を構築した。



(2) 目標



(3) 支援経過及び内容

年 度	項 目	支 援 内 容
H27	スケジュールの作成	・ 法人化、農家レストラン開設時期を明確にし、行動計画を作成
	法人設立	・ 財務状況整理、法人化事例、設立手順の紹介、中小企業診断士による経営診断と税理士による経営シミュレーションを実施
	事業計画作成	・ 視察、情報提供及び6次産業化プランナーの活用で、総合化事業計画作成(平成 28.3 認定)、マスコミへ農家レストラン開設周知
H28	農家レストランの開設	・ 視察、情報提供及び6次産業化プランナーの活用で、農家レストラン開設に向けて施設整備、運営、体制、商品開発等を総合的に支援 ・ 若手と役員の相談役・調整役になり労務管理等の体制整備を支援
H29	農家レストランの経営安定と経営発展	・ 経営の安定化に向け税理士や関係機関を交えた検討会の開催 ・ 6次産業化の発展に向けて H30 年度製粉・製麺施設導入に向けた計画作成支援
	耕作放棄地再生	・ 農業部門の強化に向けて農機メーカーとコーディネート、再生に向けた支援を開始
H30	再生農地での規模拡大	・ 農機メーカーの社会貢献プロジェクトを活用して耕作放棄地を再生、再生農地でのそば栽培と園芸導入を支援

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 法人設立

- ・ 平成 28 年 1 月、株式会社 A・ファーム雪の十日町が設立された。
(構成員 4 人、経営概況：そば 16ha、水稻作業受託 12ha)

(2) 農家レストラン「そばの郷 Abuzaka」オープン

- ・ 平成 29 年 3 月 7 日にオープン。売上げは好調で、H29 目標を達成（目標対比 120%、販売額：4,776 万円）するとともに、2 年目に入った今年も昨年と同様に好調に推移している。
- ・ 運営体制は、若い従業員が主体的に運営できるように配慮した。その結果、従業員が積極的にアイデアを出し合い、企画イベントを開催し売上高の向上につながっている。

(3) 新たな雇用創出

- ・ 法人化、農家レストランの開設により、移住・Uターン女子や地元出身者等、30 代を中心に従業員 17 人の雇用が創出された。
(農業部門 3 人、レストラン部門 14 人)



若い従業員で活性化

(4) 耕作放棄地再生と規模拡大・意欲向上

- ・機械メーカーの社会貢献プロジェクトを活用し、平成30年6月に耕作放棄地2haを再生した。目標は1haであったが、地元の気運が高まり2倍の面積が再生された。
- ・再生農地はそば栽培のみの計画であったが「園芸もやってみたい」との要望を受け、農機メーカーの協力を得てとうもろこし等の栽培にも取り組んだ。
- ・耕作放棄地を再生したことにより、地域からも喜びの声が聞かれている。また、再生農地での園芸の収穫体験、そばの花見ツアー等の構想が生まれる等社員の夢が広がっている。



機械メーカーとの連携による耕作放棄地再生



園芸導入に向けた指導



機械メーカーの協力で再生農地でとうもろこしの播種作業

(5) 地域連携による地域活性化

農家レストランのオープンにより、地元農家からの食材調達が始まる等の連携が生まれ地域活性化に寄与している。また、レストランの集客の影響で交流人口が拡大し、地元そば店からも集客が拡大しているとの喜びの声が聞かれている。

4. 農家等からの評価・コメント

普及指導センターや関係機関、6次産業化プランナー等多くの方々のおかげでここまで順調に来ることができ、とても感謝している。今後も引き続き支援をお願いしたい。（(株)A・ファーム雪の十日町 代表取締役 齋木 正 氏）

5. 普及指導員のコメント

「稼げる・暮らせる・未来につながる」農業を目指して、中山間地域の活性化モデルとなるように今後も引き続き支援していきたい。

（十日町農業普及指導センター 専門普及指導員 星野裕子）

6. 現状・今後の展開等

平成30年12月に製粉・製麺施設が完成し、そば栽培・加工・販売の一貫体系が整備される予定である。また、平成31年度も引き続き耕作放棄地再生を計画している。農家レストラン「そばの郷Abuzaka」を核にした更なる発展を支援していく。